

〔フレッシュ獣医師〕

南部家畜診療所 石井 さやか

以前（2009年4月号）、牛の獣医になって一年目が終わる際、感じたことなどを、この場书写きました。再登場にあたって、当時の記事を探して読み返してみたのですが、牛が捕まらない、夜間診療の電話に飛び上がるなどなど、ああ、そんなだったなあと振り返ることが出来ました。少し前進したのだろうと思います。最近は少しずつ、岡山の人になっているようで、実家（島根県）に帰ると、山陰の冬場の曇天に気分がどんよりし、年末年始の豪雪に埋もれ、父母と喋れば「それは岡山の言葉か。」と何度も聞かれました。

容赦なく時間が過ぎてもう三年目が終わり、後輩も増え、新人の肩書きにもタイムリミットが近づく中、まだ「フレッシュ獣医師」の声としてこのコーナーを書けることに少しほっとしています。それでも去年の三月と同じではいられないのです。二年目の目標は、一人で繁殖が診られるようになること。これはクリアしました。三年目の目標も実はあったのですが、残念ながら三月までに達成できなかったのも、秘密にしておきます。それは次の年に保留にしましたが、じゃあ今年の私の履修科目はなんだっただろうと考えてみたら、牛はもちろんですが、寧ろ自分の事が分かったような気がしました。

この高さの牛なら、届く？届かない？という物理的なことから、性格、口癖、考え方の癖、何が好きか？繁殖が好き！等等、人と比べた時の自分と、その取り扱いマニュアルです。癖と言えば、実は心配性で、油断すると牛のことで頭がいっぱいになってしまうのですが、努めて牛に関係ない話をするのは熱しやすい頭を冷やすおまじないです。

今は毎日、仕事を楽しんでいるので、なにかしらの気懸かりやもやもやも、長靴に履き替えると忘れて一日が過ぎて行きます。些細な事ですが半目を開けて反芻する牛をじっと見るのが実は好きで、真昼の静かな牛舎に牛の反芻の音だけが響いている時が、犬でも猫でもなく、牛の獣医で良かった感じる時間です。

